

第6章

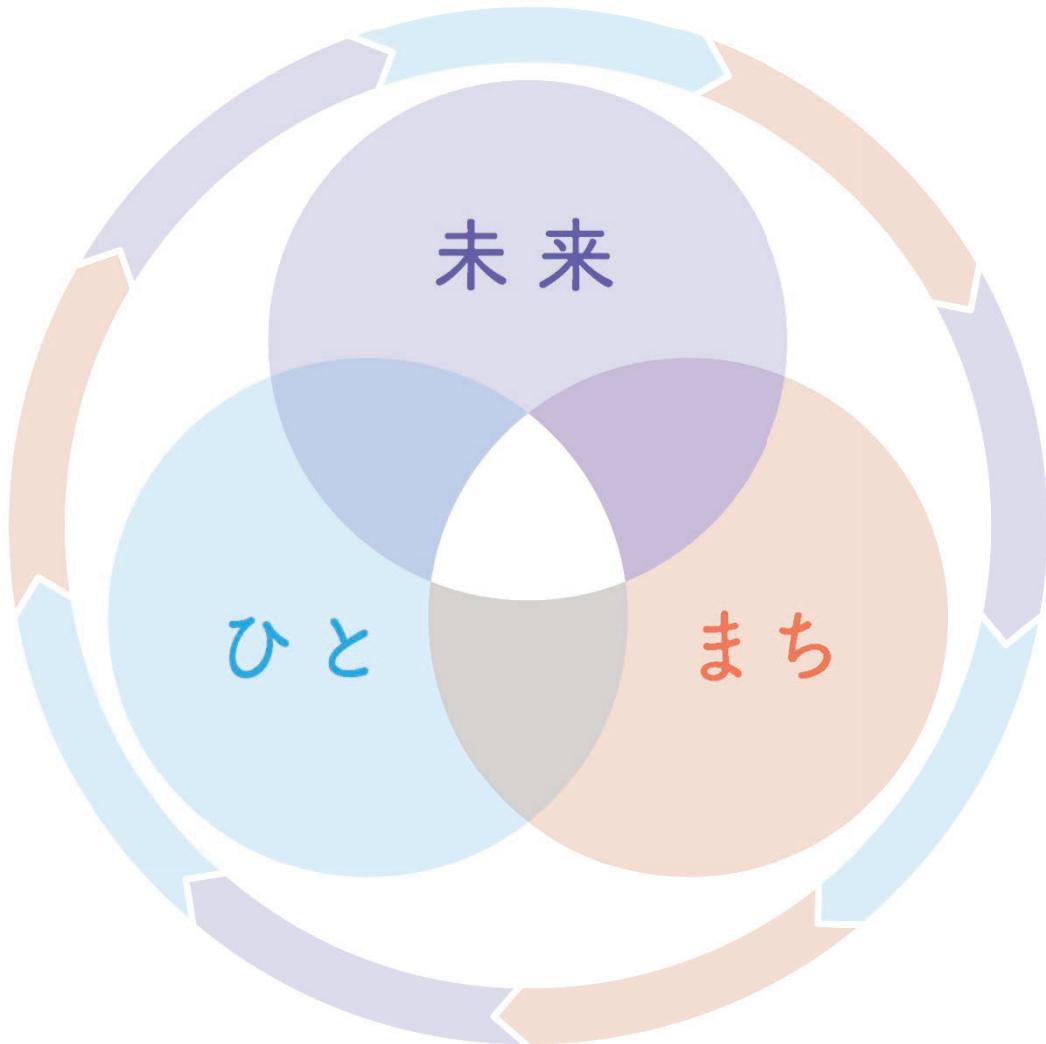
目指すまちの姿



1 目指すまちの姿

ざま未来プランはまちづくりの指針であることから、前総合計画の取組結果、市民意向、社会情勢などから考えられる課題を踏まえ、目指すまちの姿を次のとおり定めます。

ひと・まちが輝き 未来へつなぐ



“ひと”が輝く

人口減少社会においても輝くまちであるためには、ひとが輝き、市民力を高めることが必要です。

市民一人一人が対等な立場でお互いを理解して、心豊かに生き生きと笑顔で暮らせるまちであることを目指します。

“まち”が輝く

ひとが輝くためには、安全・安心で快適に暮らせる生活基盤を築くことが必要です。

まちの安全が確保され、都市基盤が維持されていることに加えて、市民・団体・企業等の多様な主体との連携、協力により、まちの新たな魅力と価値が創造され、誰もが過ごしやすく、暮らしやすいまちであることを目指します。

“未来へつなぐ”

ひと、まちの輝きは、未来を担う子どもたちを始めとした次世代に引き継いでいくことが必要です。

未来を担う子どもたちが健やかに育つまちであるとともに、ひとの技術や経験とまちの歴史や伝統を受け継ぎ、新たな価値の創造へと発展させ、将来に渡って成長するまちであることを目指します。

そして、市民の活躍がまちの魅力を高め、地域の活性化が安定的な行財政運営につながり、さらなる市民の活躍につながる好循環が実現します。

市民と地域と行政が知恵と力を出し合い連携して、輝くひと、まちが相互に高め合うことで、ふるさと“ざま”に対する愛着と誇りが深まり、本市が持続的に発展すると考え、「ひと・まちが輝き 未来へつなぐ」を目指すまちの姿とします。

2 実現に向けた基本姿勢

目指すまちの姿を実現するために、次の三つをまちづくりの基本姿勢とし、市民・団体・企業等と行政が共有しながら取り組みます。

多様な主体と共に創る「共創」のまちづくり

本市では、市民等と行政が対等の立場に立って、相互の信頼及び合意の下、役割及び責任を担い合い、お互いの特性や能力を発揮し合いながら連携、協力して、効果的にまちづくりに取り組んでいく協働を推進してきました。

協働によるまちづくりを推進する一環として、変化し続ける社会環境に柔軟に対応するため、地域課題の把握や事業の目標設定といった初期段階から多様な主体と連携、協力し、新たな価値を創造するまちづくりに取り組みます。

目標を意識したまちづくり

SDGsが掲げている「誰一人取り残さない」という理念や、明確な目標としている17のゴールは、共通のキーワードとして広く社会に浸透しています。理念や目標を共有することは、地域が持続可能な発展を遂げる上で重要な視点です。

本市においても、SDGsを意識しながら多様な主体と共に創るまちづくりを進めるために、その目標や手法をそれぞれが主体的に捉え、その進捗状況を共有できる、目標を意識したまちづくりに取り組みます。

新たな社会情勢と地域課題に対応した持続可能なまちづくり

人口が増え続けてきた本市が、人口減少へと転じる局面において、人口減少を克服するためには、社会課題の解決や地域経済の成長、地球環境への配慮といった新たな社会情勢と地域課題に対応していくことが必要です。

これまで先人たちが築いてきた財産や、従来から培ってきた考え方を尊重しながら、創意工夫を凝らして、変化に対応できる柔軟な体制を整え、持続可能なまちづくりに取り組みます。